

第2章

育休取得は工夫次第

一見、敷居が高い育児休業も、工夫次第で取れるように。
また職場が育児休業を快く受け入れるための秘訣とは？

- 早めに育児休業取得の意向を職場に伝えることで、職場も対応しやすく
- 職場では、職員の育児休業を機に仕事のやり方を見直すなど柔軟な対応をとる
- 育児休業中のことを考えて、計画的に仕事を進めたり、情報の共有化を図る。また職場のことを考えた仕事ぶりは、職場が育児休業を快く受け入れることにつながる
- 会社の制度を活用したり、育児休業を大型連休につなげるなどにより、取得しやすく
- 子育ての先輩である両親にもよく説明することが鍵。育児休業中も手助けが得られやすく
- 育児休業を取るんだ！という本人の意思がなければ、何も始まらない

先輩育休パパから



2-01 育休希望は初めは冗談かなと思われていたかも。正式表明後は、職場が積極的に環境づくりをしてくれた

私を変えた育児休業！ ありがとう！！

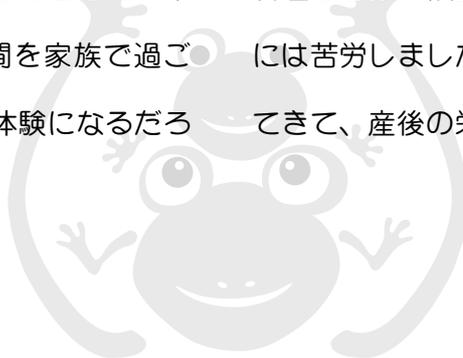
大牟田 直人 さん

私は妻の産後 1 カ月間、育児休業を取得しました。妻は早くに母親を亡くしており、また当時は父親も病気療養中であったため、出産に際して、妻の両親に家事などをお願いすることはできない環境にありました。1 人目のときには私の母に来てもらいました。2 人目のときには、私の母と妻の妹が手伝ってくれました。そして妻が 3 人目の子どもを妊娠したとき、「今回が赤ちゃんの育児に参加できる最後の機会かもしれない。今回は一緒に過ごしたい。」と思い、育児休業を取得したい旨をまず妻に相談しました。妻は、「本当に取れるの。」という感じでしたが、取得に関しては本当に取れるならと賛成してくれました。その間、収入がなくなることへの不安もありましたが、「この期間を家族で過ごすことは家族にとって貴重な体験になるだろ

う。」と思い取得を決断しました。

上司や同僚には、妻の妊娠がわかった時点から、飲み会の席などで育児休業をとりたいと思う旨を伝えていました。最初は周りも「冗談かな」と思っていたかもしれませんが、正式に取得したい旨を伝えると、仕事の流れや順番など、仕事への影響が最小限になるように、検討をしていただきました。上司や同僚には大変感謝しています。このように職場での協力が得られたことも育児休業取得を決断する大きな一因となりました。

休業中は食事の準備、掃除、洗濯、長女の幼稚園の弁当の用意、幼稚園の送り迎え、習い事の付き添いなどを行って過ごしました。料理などは普段全くしないため、毎日の献立には苦労しました。図書館で料理の本を借りてきて、産後の栄養のことなども考えながら





頑張りました。家事を甘く見ていましたが、次から次に仕事がやってくるという感じでした。洗濯が終わったら朝食の準備、朝食の後片付けが終わったら、掃除、掃除が終わったら昼食の準備と、休む暇がなく予想以上に大変でした。これまでのことを振り返り、妻にもっと感謝しなくてはと思いました。また、幼稚園の送り迎えや習い事の付き添いなど、子どもと過ごす時間が増えたこともよかったです。普段家では見せない子どもの姿を見ることができました。

また、この期間に家事を経験したおかげで、今では妻が病気の時なども困ることがなく

なりました。料理に関しても、今では、休みの日に子どもたちと一緒に料理をしたり、妻と一緒に運動会の弁当を作ったりするようになりました。

忙しいながらも家族みんなで過ごした1カ月はとても楽しく、家族にとって、かけがえのない時間になりました。育児休業を取得して本当によかったと思っています。これから育児休業の取得を考えている方は、是非取得することをお勧めします。不安に感じることも多いと思いますが、それ以上に得られるものも多いですから。



執筆者の横顔：

会社員 5,000人～ 30代後半 30代後半
(1カ月間)



2-02 育休を取得するという強い意思と何をすべきかを真剣に考えることが、育休を温かく受け入れてもらう鍵

私の育児休業を振り返って

於久 英樹 さん

「明日から名古屋で仕事だな。」振り返れば、長い育児もあっという間に過ぎ去った。GWを含めて、約3週間、家事と育児で一色の毎日の中での出来事を思い出し、家事の大変さを再認識し毎日やっている妻への感謝の念が湧き上がる。

家事には、「時間が無かったから」という事は出来ない。「時間が無かったから今晚はお風呂と御飯は無いよ」とは言えないし、思いがけない事も起きる。子供が怪我をしても、逃げ出す事は出来ない。

仕事も別の意味で大変だけど、「まあ、明日でもこれは良いなあ」と言う所もある。家事は、毎日高度な段取り組みを求められ、それをやっていかないと終わらない類の仕事。その中で育児もする妻はすごいと感服する。

娘が生まれる4カ月前に社内規定が変わり、男性でも子供が2歳になるまでに育児を取得出来る事を知り、直ちに取得を決意。時期は、後で周囲と相談すれば良いと考えた。

その後、名古屋への転勤がちらほら聞こえて来て、生まれる2カ月前に転勤が決定。家族

会議(と言っても妻と息子と私の3人)で、私は名古屋へ単身赴任、新年度が始まったら、直ちに、育児を取る事にした。

と言うのも、息子も小学一年生になり、環境の余りの変化に妻への負担の大きさは想像がつかず、兎に角、娘の首が据わる3カ月間は出来る限りの手がいていると言うのが二人の結論だった。

会社の同僚、上司には、「育休を取る」と機会があれば言い続け、同時に、自分の仕事は、細大漏らさず何でも巻き込み、取得2カ月前から自分が不在でも業務に支障の無い体制を目指した。特に、不在中に迷惑をかける海外駐在員にはその間の代役をお願いし留守中に備えた。

同僚、上司には我が家と同じ年頃の幼い子が居ると言う事も幸いし、多くを語らずとも理解を得られた。

娘が生まれ、新年度となり、いよいよ育休に突入。妻は夜も定期的に母乳をやるので、朝食の準備は私の仕事。パンを焼く程度ながらも、慣れずにあたふたとしている自分を感じる。息子を起こし、せつつきながら、朝食を

食べさせて、どたばたと送り出す。

その後に、掃除、洗濯をして妻が起きてくる。洗濯をしながら、普段から家族が清潔な服を着る為に使っている妻の労力の大きさを考え、平凡な事を続ける事の非凡さの大切さを実感する。

夜は、おっかなびっくりしながら、生まれたばかりの娘をお風呂に入れて、どたばたと息子も風呂に入れて寝かせる。

そんな中で、毎日、娘だけでなく息子の成長も実感出来る事に幸せを感じ、いつまでもその幸福が続いて欲しいと願っている自分が居る。

子育てという言葉は、大人の側からの目線の言葉で、共に育っていくのが本当ではと思う。「教育」ではなく「共育」。子供が教えてくれるものは、本当に無限。無邪気なもの、新鮮なもの等々千差万別。大人の凝り固まった頭を解きほぐしてくれる、ある意味、掛け替えの無い癒しかも知れない。

仕事と家庭の両立は難しいと言うが、それは多分、自分次第。二者択一と言う単純なものではなく、周囲と常に話し合っ理解を得ながらバランスを取るのだと思う。その中で、一つだけ明確な事がある。家も仕事も一生懸命であれば、両方共に上手く行く。

仕事に復帰して、ただちに1ヵ月間の海外出張となった。けれども育休のお陰で家がしっかりしていると感じられ、余裕もって仕事に向かい合え、且つ、集中度も高くなる。家庭に帰れるのを楽しみにしている自分が居て、本当に良いスパイラルになる。

掛け替えの無い家庭と家族。その為に育休が取れないのではなく、取るという強い意志を持って、どうするのかを真剣に考え、一日一日を真摯に過ごしていれば、自ずと温かい視線で職場でも受け入れて貰えると思う。

2度と無いその時に接せられるのは、大きな幸せだと私は確信しています。



執筆者の横顔：

会社員・課長 約3,000人 40代前半
40代前半 本人・妻・子(2人(6歳、0歳))
平成20年4月～5月(1ヵ月間)



2-03 仕事も育児も両方とも充実できるという意識を持って育休を取得。意外にも職場が非常に好意的

仕事と育児はプラスとプラス

清水 恭一 さん

「なぜ育児休業を取得したのか？」と問われ、「保育園に入れなかったから」と答えると怪訝な顔をされます。質問者は「なぜ『男性』なのに育児休業を取得したのか？」という問いの答えを求めているからです。確かに今なお育児休業を取得する男性は非常識な存在なのかもしれません。しかも私は二度も取得しているのです。

私はそもそも常識には囚われないタイプでしたが、それを差し引いても、育児休業取得の理由を問われれば、育児のすべてをパートナーに押し付けられなかったからという答えになるでしょう。育児はとても大変なものです。しかも一日二十四時間、一年三百六十五日です。たとえパートナーが専業主婦だったとしてもそのすべてを押し付けることはできなかったでしょう。そして仕事と育児はプラスとマイナスか？ と考えるようになったのです。

仕事は育児に差し支えるものであり、育児は仕事に差し支えるものだとしたら仕事と育

児の両立と言ってもただ辛いだけです。仕事も育児も両方とも充実する関係があるのではないか？ という考えが私を育児休業に導きました。それはワーク・ライフ・バランスとイコールであると思います。そして三男のときに約七カ月間の、長女のときに約九カ月間の育児休業を取得したのです。

結果、妻や妻の実家から評判が良かったことはもちろんですが、意外だったのは職場が非常に好意的に受け止めてくれたことでした。私の職場は三十年位前までは女性の正規採用もなかったくらい保守的な職場でしたが、時代には逆らわず、男性の育児休業取得者を求めているのです。今や我が職場は「男性で二回、育児休業を取得した人がいる職場」になりました。

ただいくら職場が前向きになっても家庭における男性の居場所がないと不十分です。男性がたとえ毎日、定時に帰宅できるようになったとしても家庭の役割が確立されていな



ければ単に男性の暇な時間が増えるだけであって、ワーク・ライフ・バランスを実現したいができない男性が多くいるのも事実です。そうである以上やはり行政が背中を押すべきです。男性がもっと育児を担うよう行政がキャンペーンをする意味は十分にあり、例えば「乳幼児の健康診断は父が連れて行こう!」というような積極的なキャンペーンが欲しいです。

最後に少子化について申し上げます。現在、我が国は少子化が進んでいますが、これは何もかも女性に押し付けてしまったことに原因があるのだと思います。男女共同参画社会といい、「女性でも優秀な人はどんどん社会に

出て活躍してください」と言っても、「でも結婚して子どもを産んだら子育てもよろしくね」というのでは女性は出産を躊躇し、結婚を躊躇し、しまいには恋愛をも躊躇してしまうのではないのでしょうか？女性を社会進出させるのであれば、これに見合うだけの男性の家庭への回帰が必要なはずですよ。もし我が国が真剣に少子化対策にチャレンジしたいと考えるのであれば、「女性は産んでくれさえすればいい、後は男性がすべてやる」くらいの心構えが欲しいです。私には子どもが五人います。男性の家庭への回帰があれば、仕事と育児を両立しつつ子どもを五人くらい育てることはできるのです。



執筆者の横顔：

(兼業主夫) 30代前半

平成13年9月～14年4月、19年～20年4月(1年6ヵ月間)



2-04 すぐに上司に相談。職場が体制を整え、柔軟に対応してくれたおかげで、取得も復帰も円滑にできた

育児休業が私に経験させてくれたこと

高谷 彰さん

平成20年6月8日、待望の第二子（以下、下の子）が生まれ、私は出産支援休暇、育児休業、年次有給休暇、夏季休暇を組み合わせて6月13日から8月11日まで約2カ月間仕事を休みました。

私が育児休業の取得を決意したのは、実は第一子（以下、上の子）が生まれてから数週間経った頃でした。ある日の昼休み、家に様子を見に帰ったところ（通勤時間約10分の職住近接生活をしています）、妻子ともにここにこして幸せそうでした。しかし、仕事を終えて帰宅すると、赤ん坊は泣き喚き、妻は疲れ果ててぐったりしていたのです。一体この数時間の間に何があったのか。1人で育児をするのは大変なんだなあと初めて実感した瞬間でした。この時の感情がきっかけとなり、私は、まだ授かるかどうか分からない下の子の育児休業を取得する決意をしました。また、実際に育児をしていくうちに、近い将来、妻が1人で赤ん坊の世話をしながら、上の子の保育園の送迎や家事をする大変さを想像するようになり、育児休業を取得する決意は日に

日に強くなっていったのです。

下の子を授かったことが分かった時、私は直ぐに上司に相談し、妻の産後休業の時期に重ねて育児休業を取得したいと伝えました。当時の上司は理解のある方で、快諾してくれた上、仕事と育児休業のバランスに配慮して係を異動させてくれました。また、異動先でもベテラン職員の方々が中心となって、育児休業中の私の仕事を分担して引き受けてくれました。このような職場の支援があったお陰で、私は、復帰後わずか1週間程で仕事のリズムを取り戻すことができたのです。

育児休業取得の際に困ったことは、とにかく申請書類が多かったことと、申請手続きを誰に聞いたら良いのか分からなかったことです。会社によると思いますが、育児休業の担当を一元化して配置できれば、育児休業取得者としてはありがたいと思います。

また、下の子の育児休業取得は上の子の保育園利用とも密接な関係があります。私は育児休業を妻の産後休業の時期に重ねて取得したので、その期間は親が2人家にいることに

なります。法律的に考えれば、妻は産後休業で、私は下の子の育児休業なので、上の子の保育に欠けると説明できそうだと考えましたが、このような事例が認められるのか不安でしたので、上の子の通っている保育園の園長先生に何度か相談をしました。当時の園長先生は保育課に協議を持ちかけ、上の子は今まで通り預かると回答してくれました。結果的に、私のような事例は過去に無かったのですが、保育課は保育の現状を踏まえながら慎重に検討して回答したとのことでした。私は、男性の育児休業の取得環境向上に寄与する判断だと評価しています。

育児休業取得中の生活は、時間の流れがいつもと全く違いました。初めの1カ月は、家事全般、上の子の保育園の送迎、下の子の夜中のミルク（交代制）等、仕事と同じペースでやっていましたが、慣れてくるにしたがっ

て子どもとゆったり過ごす時間も増えてきました。育児休業取得前は効率重視で行動していましたが、子どもとゆったり過ごせたことで、育児まで効率重視になっていた自分に気付くことができました。効率重視では、イライラして、ついもたもたする子どもの世話を焼いてしまったりしがちです。実は仕事でもそうなのですが、あまり本人のためになりませんし、自分のためにもならないのです。

また、妻との育児に関する会話や親戚付き合い、近所付き合い等に時間を割くことができ、非常に有意義な2カ月間でした。もう一度機会があれば、是非取得したいと考えています。育児休業は仕事や家庭をより深く見直すきっかけを与えてくれます。仕事と家庭の両立生活をより良くするために、機会のある男性の皆さんは取得を検討してみたいはいかがでしょうか。

執筆者の横顔：

公務員 1,000人～4,999人 30代前半
30代前半 本人・妻(フルタイム勤務)・子2人(男
児1人、女児1人) 平成20年6月～7月(2ヵ月間)





2-05 育休前は、休業中のことを考えて出来る限り仕事を進めた。だからすっきりとした気持ちで育休に入れた

自分にとって大切なこと

匿名

1. なぜ育児休業？

子どもが生まれる。

それは自分や妻にとっても、家族の生活にとっても、とてつもなく大きな出来事です。また、困難を伴うことでもあります。

私は、二人目の子どもが生まれる前後に、特別休暇等と合わせて計 8 週間の休業・休暇を取得しました。長男は当時 3 歳になろうとする頃で、やんちゃ盛り。妻一人で産前産後を乗り切ることが、どれほど大変か容易に想像ができました。そして、幼い息子にも、兄になるという大きな変化が訪れようとしていました。

私は仕事を休むことにしました。

考えてみれば、この期間、実家の助けを得て、自分が単身赴任生活を送るという選択肢もなかったわけではありません。しかし、大変な時期だからこそ、家庭の中で役割を果たしたいと思いました。

2. 早めに相談

まずは妻との相談です。

自分が最も必要とされる期間はいつか。まず、出産後に上の子どもの世話役が必要でした。また、幼児を抱えつつの妊娠は初めてであり、妻が産前にどの程度子育てができるの

か、予測できませんでした。いろいろとシミュレーションした結果、産後だけではなく、産前にもお休みを頂くことにしました。

次に、職場への相談です。

私の職場には、育休経験者による相談員制度がありました。相談員の先輩が、育休の期間や申請のタイミング等、親身に相談に乗ってくださいました。残業も多い風土の中で、上司や人事の方に育休の話を持ち出すのは、それなりに勇気のいることでしたが、相談員の先輩にグッと背中を押していただきました。

上司や人事の方に相談する上で大切なことは、「早めに相談する」ことです。早ければ早い方がいいと思います。私が希望を伝えたのは、取得時から 5 か月ほど前でした。

3. 取得までの日々

一旦、取得すると決まったら、休業中のことも考え、できる仕事は全て済ませておきたいと思いました。もちろん限度はあります。ですが、そうした気持ちで仕事に当たってこそ、助けてくださる周囲の方々に素直にお願いできるのだと思います。

私は、ある報告書の作成に携わっていました。その完成まで見届けることはできませ

んでしたが、方向性が決まるまでのプロセスはやり遂げたという想いを持つことができ、すっきりした気持ちで休業に入ることができました。

4. 休業中の生活

休業期間中は、妻の体力回復を最優先に考え、私は、長男の子育てと家事を全面的に担当しました。

日々の生活は、普段の休日と大きな違いがあるわけではありません。朝起きて、家事をしつつ子どもの相手をして。息をつく暇もなく、一日は過ぎていきます。

そんな中でも、まとまった休業期間ならではの経験もあります。休業中ほど、連日、朝昼晩と食事を作った経験はありません。とにかく色々と作ってみました。趣味で作る料理と、生活の中で作る料理は、求められるスピードが違います。この経験は、その後の生活でも大いに役立っています。

休業期間はあっという間に過ぎましたが、私と妻には子どもが増え、息子は兄になりました。

した。この大きな変化の中、家族が共に過ごすことができました。休業取得してもしなくても、子どもへの愛情が変わることはないでしょうし、短期間の休業が、その後の成長を左右するとも思いません。ですが、私は、本当に良かったと感じています。家族のそれぞれにとって、大きな変化が生じる時期に、私も妻も安心して過ごすことができました。

5. 最後に

職場の上司や同僚の温かいサポートを得て、育休を取得できたことは、私にとって、大きな意味がありました。今後、家庭生活を大切にしながら、職業生活を営んでいくことに自信が持てたからです。

休業期間だけが重要なわけではありません。その後も、大なり小なり、家庭を最優先にすべき場面が訪れてきます。また、仕事に注力すべきときもあります。育休の経験から、今後も、その時々大切なことを大切にしながら生きていこうと思うようになりました。

執筆者の横顔：

公務員 30代前半 20代後半
平成19年5月～6月(2ヵ月間)





2-06 育休取得を早めに会社に相談することで、上司にじっくりと聞いてもらい、理解してもらえた

パパは<育児なし>じゃないよ

根本 徹さん

「うれしいけど、無理なんじゃないの。」

私が育児休業について妻に相談したところ、こんな言葉が返ってきた。主な心配事は二つ。

まず、会社に迷惑をかけること。そしてもう一つはやはり、お金のことだった。

妻が安定期に入る妊娠5カ月目になったら、会社に育休希望を伝えることにした。早めに相談することで、私の考えを会社にじっ

くりと聞いてもらえる環境を作りたかったからだ。

育児は立派なキャリアである、と私は思う。国家資格の取得や語学の習得と同じで、出産や育児の現場を通じて社会をとらえ直すことは、今後の自分の仕事全般にきっと役立つに違いない。私はぜひとも育児休業によって、キャリアアップを実現したかったのだ。幸いなことに、私の考えは上司や同僚に理解してもらえた。実際、育休中には仕事につながるアイデアが次々と浮かんでくるので、忘れな





いよう、手帳にせっせと書きためている。

お金に関しては、心の持ちよう一つ、との結論に達した。一生涯で得られる総賃金で考えれば、一年休業することは、一年多く大学浪人をしたことと大して差がないだろう、と。

浪人生と違って、出産や育児をする人への公的なお金の支援は多数ある。きちんと合算してみると、給料の半分相当にはなった。さらに自治体によっては、乳幼児の医療費が無料だ。どうやら貯蓄を切り崩すばかりでもな

い、とわかって、お金の心配はほぼ解消された。

育休中の今、私は強く実感している。貯蓄が減っても、家族そろって質素に楽しく暮らすことが何より妻孝行になる、ということ。

そして私は胸をはって子どもに自慢できる。「パパは<育児なし>じゃないよ!」と。

結局、必要なのは勇気、だけなのである。

執筆者の横顔：

会社員 300人～999人 30代前半
30代前半 本人・妻・子1人
平成20年5月～21年4月(1年間)





2-07 育休取得にける意気込みを熱く語る。そして、きちんとスケジュールに組み込むことで育休を獲得

僕が育児休職を取った理由(わけ)

丸山 和也 さん

なぜ僕が取得するのか。実は彼女の体調が悪い？ 彼女の実家が遠くてサポートしてもらえない？ 彼女の産後の肥立ちをサポートしないといけないことは勉強して理解している。しかし、そういうことだけじゃない。僕はこの人生の一大イベントに、外野では居たくないのだ。

彼女との会話。「休めるだけ休んだらええやん」「無給やで？」「ええやん、その間私は有給やし」。あっさり彼女クリア。次に彼女のお母さん。これが意外と抵抗勢力。「えーっつ！ 私が居るのになんで休むの？」「旦那さんは会社で働くのがあたり前。」「家庭状況が複雑みたいに思われたい？」「会社休んだら後々響かない？」と、反論しにくい指摘を連発。切替す僕。「誰も僕だけで家事育児するとは言ってないよ。」「え？ 一人でやらないの？」「あたり前やん。家事できないもん。」「じゃあなんで休むの？ 役に立たないなら仕事に行かなきゃ」……完全に負けた。

次に職場。実はなんと妊娠確認 2 週間後に自分に人事異動の話が……こんな状況で休め

るのか！ 休職の話をしたときの現職場の反応「サポートできる家族居ないんだ。大変だね。」「休んで役に立つの？ 家事とかできるの？」「誰も取得してないから率先して取得するんだ」……いやいや、ただ取りたいだけなんだけど。

異動先の上司「え、まじ？ どれくらい休むの？」あ、簡単には行かなさそう。新職場「休むために異動してくるの？」そ、そういう訳では……反応のテンションが違う！ でも負けない！

この時点で初めて会社の制度を確認。無条件なのは 8 週間！ 獲得へ行動開始！

作戦は三つ。「とにかくまず一方的に宣言」「もう確定した予定として扱う」「まわりに意気込みを語る」

すぐさま異動先上司に宣言し、スケジュール調整のたびに育児休職期間をアピール、家事についてのトークを連発。すると徐々に既成事実に変化。休む準備を着々と進める。

一方、異動の助けもあり仕事観が大きく変化。過去には過労で休んだこともあったが、

集団の一員としての役割に徹する日々。

35時間の陣痛の末、9月19日に息子大翔（やまと）が誕生。夫婦別姓で10年以上生活してきたが、今回は僕が彼女の姓を名乗ることにして、家族統一。

8週間の休職生活、母体への厳しい要求。「毎食スープを飲む」「家事を極力させない」「乳製品、油分を極力とらせない」。家事ダメ夫が編み出したのは、大量の野菜を圧力鍋で火を通し保存。なんにでも入れる！あとはやっぱり孫ができた時のおばあちゃんの威力は絶大。実益もさることながら、第三者的な視点はとても助かる！

大翔、生後8週間の変化はすごい。感動というよりも驚愕。

あっという間に職場に復帰。旧姓での復帰を試みるが立ちどころにいろいろな壁。女性の苦労が身にしみた。一方、職場の反応は、「はいお帰り」でおしまい。本当に有難い一言。これで復帰後の不安は一挙に吹っ飛んだ。周りのベテラン勢「実は自分もあの時もう少

し関われば今の親子関係も違ったのかなと思った。」若手「そうやって男性も取れるなら、もう一人生む計画立てようかな、マジで。」番外編「俺の孫の方がかわいいよ。」お姉さま方「どれだけ大変か分かった？」

一方で進まない理解。「いいよなあ休める部署でさ。」←こう言われると辛い。そんな部署はない！その時自分が何を選択するかなのだ！！父親になったとき誓ったことは三つ。「自分のことは自分でやる」「その日の家事はその日のうちに済ませる」「ワークライフバランスの重心を意識する」

あれから早1年。今年の10月から共働き再開で大翔は保育園。1歳を過ぎ、掴まり立ちを始めた。果たして自分は「子供」を選択する！これが本当に出来ているか？常に自分に問いながら現在毎日奮闘中。



執筆者の横顔：

会社員 1,000～4,999人 30代後半
30代後半 本人・妻・子1人(男児1人)
平成19年9月～11月(2ヵ月間)



2-08 大型連休とつなげ、会社の制度を利用することで、育児休業を取得

育児体験記

三石 真裕 さん

・ 育児休業の取得を決意したきっかけ

産後の肥立ちを考えて出産後 20 日程度はあまり動かない方が良くという話を聞いていましたが、妻の母親が既に亡くなっていて妻の実家に預けることが難しく、私の実家に預ける場合は私も実家から遠距離通勤となってしまうので、休日出勤が溜まっていたこともあり、まとまった休みを取ろうと思いました。

・ 育児休業を取得するに当たっての職場とのやり取り

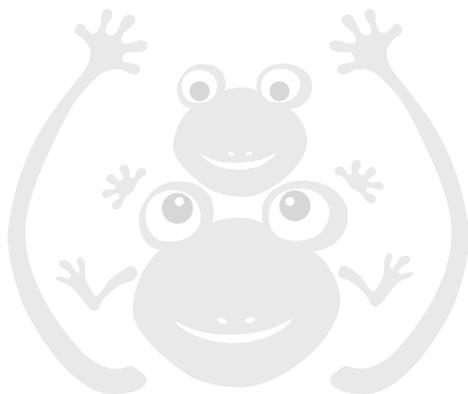
短時間勤務等の制度が進んでいることもあり、上司や職場の理解は得られていたと思い

ます。

ゴールデンウィークを含めた連続 3 週間という短期の休みでしたので、仕事の調整も付け易く、障害となる様な事はありませんでした。

・ 育児休業を取得するに当たっての家族とのやり取り

妻は産休後に退職することを決めていたので、それだけでも世帯収入が減ることになりますが、更に育児休業を取ることににより私の給与・賞与が減額となることを気にしていました。単純な育児休業では無給扱いになると





と思いますが、私の場合は5日間の特別休暇+休日出勤分の振替休暇となり、少なくとも給与にはまったく影響がないので、その事を伝え理解して貰いました。

・育児休業中の日々感じたこと

翌日の事を気にせずに夜泣きにとことん付き合えたことが印象深いです。

また、勤務日にはどんなに早く帰っても大体は寝てしまっているの、寝顔しか見ることが出来ず、育児休業中が懐かしく思えます。

仕事と家庭の両立に関しては、平日は子供と直接触れ合うのはあきらめて家事の手伝い

に専念し、休日に思い切り触れ合う形がベストだと思っています。

・育児休業中の経験が子供との関係や復帰後の仕事に与えた影響

3週間子供と触れ合えたおかげで、子供への愛情の芽生えが早かったのではないかと思います。

職場への復帰後は、昼休み以外の休憩は基本的に取らず、少しでも早く帰りたいと思うようになりました。

執筆者の横顔：

会社員 30代前半 平成20年4月(3週間)



